

農家の方にお尋ねします。(よろしければ消費者の方なども農家の立場にたってお答えください)

● 今後、零細(里山など)農家はどのように農地やそこに暮らす人を守っていけばよいと思われませんか? あるいは、若い人たちが定住し、次世代の農業の担い手を育てるためにはどうすればよいと思われませんか? そのためにはどのようなことが必要と思われませんか?

・加工食品にして、付加価値をつける

・観光・エンターテインメントの題材にすることにより付加価値をつける。

・儲かる農業の展開

・行政の方針ではいろいろな補助金があるが、行政の制度は利用されるのではなくうまく利用する必要がある。

・行政の制度は現場のことを一切考えていないので現場を知る必要がある。

・今までの考えを変えて、住みやすく、やはりお金儲けのできることを町中で考えないと思います。

・売れる米を作り、生活できる農業

・米価があまりにも低くなりました。(20年前の半分になっている)

・もう少し採算の合う価格にしてほしいです。

・私共の地区は高齢世帯が多く、井上さんのようなリーダーがおりません。

・再生産可能な価格でお米が売れること。

・技術を引き継いでいくためには組織化が必要ではないか。

・コスト削減には、スケール拡大(財界・政府が言っている)だけではない方法があると思うが…⇒アメリカ・オーストラリアのコスト計算の情報がほしい。

・助け合いの精神(共同作業)

・地域を魅力ある場所に

・農家がますます高齢化する時代で、個々の農家が思い思いに仕事をする時代ではない。共同化の方向を地域で進める必要を感じています。

・直売所、加工場、田舎カルチャーハウス等高齢者も楽しみながら販売できるシステム作り。

・農地を守るには、集落単位では追い付かないので、市単位(または舞鶴なら東・西・加佐の3つぐらい)で、専業・兼業関係なく休日、空いた日に協力できる人を登録し、農作業実施日を定めて、休耕地または高齢者の農地を耕していく。府・市から日当の助成を受けられるようにする。

・農業に関心のある人には、研修費という名目で日当を助成してもらえるようにし、実家又は街中からの通いでも可能にする。

・(販路の開発)中丹米として、中国の富豪層へ期間限定(5年くらい)で輸出する。→JAとは別に生産者で登録して実施

・米価が問題で、良ければ若い人達も元気出して兼業でもやってくれると思います。

・田舎特別法…作っていただく必要(政治)

・誰しも便利な場所がいいに決まっているはず…田舎だけの特権が必要(生活の上で)

・年金生活者以外の人が生活できる地域づくり!(高齢・少人数は今後も続くだろう)

・米価格の下がる時代、うまい米を作らないと…もう一度食べたいと思わせるような味の米を作れば生き残れると思います。

・転作物でできるだけ手間がかからず金になるようなものを早く見出していくこと。

・農家の様々なノウハウをアピールする場を作っていくことが大事。

・米の価格をもう一度見直し、米の食文化を根付かせたい。

・守るという発想は、継続させていくときに負担が大きい。農地や農村を維持していく必要性を明らかにして、必然的に守らせていくということが必要だと思います。

・そうすれば自然と若い人たちが農村に定住していくと思います。収益性の高い作物の栽培や都市部よりも恵まれた生活環境の装備が必要だと思います。(特に行政の支援)

・様々な農機具を安価でレンタル⇒たとえば竹の木をチップにする機械とかコンボとか

・農家には軽油を割引きで購入できるパスを作る(量は畑の面積に対しての上限をつける)

・畑や山林で燃やす場合、もっと規制を緩和してほしい。

・兼業農家が許されるのであれば、半農半Xを目指すべき。

・田舎で暮らせる職業(作家、芸術家、プログラマーなど)の経験者に住んでもらうこと。

・1ターンを求めています。話ができる若い人、村の文化を理解しようとする軟頭(柔軟な頭の持ち主)が望ましい。

・地域の者には酒を酌み交わす場、共同作業する場が必要。

・農村と都市の関係についての定見、将来性のある発展的考え方をいろんな具体的型(交流とかその他)でさぐり、求めていくこと。

・私の地域は高齢者が多く、無耕作地が多くなっている。農業を続けるには、2ha以上、それには農業機械に投資が必要となるが、資金を投資する決断ができない。

・支援が受けられる制度があるのかどうか知らない。

●今、里山では獣害(鹿・イノシシなど)の被害が相次いでおり、農作物に多大な影響を及ぼしています。それぞれ工夫されている対策や効果的と思われる対策などがあればお聞かせください。

- ・ジビエ料理を開発する。
- ・自然循環を取り戻す。
- ・鹿もイノシシも防ぐためには2m以上のメッシュ柵しか防げないが、猿はメッシュ柵では防げないので効果的な対策があれば知りたい。
- ・主人が猟友会に入り、資格を取り、檻を設置したりしています。それでも大変なことです。イノシシ、猿、アライグマ、ネズミ、モグラと頭を抱えています。
- ・地域ぐるみでの対策が必要(個人では限界がある)
- ・電気柵に勝る方法はないが、昨年より補助を受け、捕獲に努めています。(昨年5匹捕まえて札処分した)ある程度個体数を少なくしなければ被害がなくなる。
- ・家の近くまでイノシシ、アライグマが出没し、地区全体に電気柵を取り入れています。
- ・捕獲と防護の両方が必要。
- ・山林の手入れと広葉樹林の拡大が必要。
- ・特に杉・檜林の間伐推進が必要。
- ・電気柵、線2段、夜電気を通す。
- ・網では体験から防除できない。
- ・いろいろと対策を取っても効果がない。(電柵、ネット)
- ・今後は、鹿・イノシシの遊び地を里山に作って、自然と彼らの田畑侵入を防ぐ方法しかないと思う。
- ・自分または自分の集落には、集落内においては承諾してもらって置いて、わなを仕掛けて殺処分をする。捕獲した動物、数量等は一切誰にも言わず(市、府などにも)土に埋める。
猿も同じである。
- ・保護を訴えるなら、個体数の完全把握と絶滅の危機があるなら動物園等での保護をしていただく。
- ・人間の生死と動物の保護をしっかりと市・府・国が真剣に考える時期が遅すぎる。
- ・農区で柵を設置し、10日ごとに点検し、個人的に網を必要に応じて設置しています。
- ・(鹿・イノシシ)は退治する以外にない。…(ネット・電柵・檻)もあるがありがたき! ⇒九州高崎山の猿の場合、ピルの服用などで対処している
- ・電気柵はもう慣れてしまっているのか、メッシュか金網柵でないと防げません。また、2m位の高さでは鹿は飛び越えます。そこでどうするか、これが問題です。
また、道路、川をどう防ぐかが問題で、今のところこれといった決定策が見当たりません。
- ・鹿・イノシシの捕獲に経済的メリットがなければ、継続した対策は不可能だと思います。一時的に効果を上げることはできるでしょうが…。鹿肉や猪肉が、日常的に豚や牛のように一般家庭の食卓に上るようになれば、かえって、鹿や猪の絶滅する日が遠くない日には来るのではないのでしょうか?
そのためには販売促進していくことも必要ですが、消費者ニーズに合った商品を作っていく必要があると思います。
- ・猟友会にも助けてもらう訳ですが、話によるとメンバーの中にも縄張り争いがあるようで(収入化関係するため)そのあたりの改革も必要だと思います。
- ・里まで下りて来なくてよいように、実のなる木(クヌギなど)をたくさん植樹する。⇒食べる実がたくさんあれば里まで下りて来なくてよい。
- ・各家で犬を飼うことか…
- ・極端なことを言えば、その集落で1年間農作物を作らず、獣を死滅させればよい。
- ・残念ながら…
- ・個人の対策ではなく、村全体での電気柵は効果を上げている。